イネヨトウ（ダイメイチュウ）

１　発生生態

⑴見分け方

成虫は体長 12mm～15mm で開長は 27～30mm。全体的に淡灰褐色を呈している。

卵は少し平たい球形で放射線状の線が表面にあり、イネやヒエなどの葉に卵塊として産みつけられる。

幼虫はニカメイチュウより若干大きく、老齢幼虫で 26mm～31mm 程度である。体色は全体的に灰黄白色だが、背面は紫紅色をおびている（写真）。

被害はニカメイガと類似するが、本幼虫は糞を食入部の外に出す点で異なる。また、本種の被害は畦畔際に多いのも特徴である。

⑵　発生のようす

発生は本州中部以西に多い。幼虫が地際茎内で越冬し、春に蛹化、５月に羽化する。交尾後２～３日から葉鞘内側に普通４～５卵塊、多いと 15 卵塊を産む。卵塊は 30～60 粒からなる。

茎内を食害しニカメイチュウのように白穂を発生させる。発生は畦畔際に多く、イネのほかムギ類、トウモロコシなども加害することがある。

本県では６月下旬～７月に全域で発生が見られるが、発生株率は高くても数%にとどまり、大きな被害となることはない。

２　防除方法

稈の太い品種や葉色が濃いと発生しやすくなるが、発生量が問題とならない程度であるため、本種を対象とした防除は行われていない。

写真　イネヨトウ幼虫